



ご挨拶

国際ロータリー第 2520 地区

ガバナー 柴田 茂

【共に歩み、未来に飛躍する】

皆様、7月を迎え、いよいよ2026-2027年度がスタートいたしました。

このたび、国際ロータリー第2520地区ガバナーという大役を拝命し、身の引き締まる思いであります。

歴代ガバナーをはじめ、多くの諸先方が築き上げてこられた伝統と信頼を受け継ぎながら、地区内すべてのクラブ、会員の皆様と力を合わせ、一年間歩んでまいります。

本年度、オンラインカ・ハキーム・ババロラRI会長は、「Create Lasting Impact（持続可能なインパクトを生み出そう）」をメッセージとして掲げられました。

このメッセージは、単に奉仕活動を行うだけではなく、その活動が地域社会や次世代にどのような価値を残していくのかを問いかけるものであります。私たちロータリアンには、一時的な支援ではなく、未来へつなげる行動が求められております。

当地区におきましては、地区チーム研修セミナー（DTLS）、会長エレクトラーニングセミナー（PELS）、地区研修・協議会（CLLS）の3大セミナーを通じ、本年度に向けた学びと準備を重ねてまいりました。

DTLSでは、RI会長メッセージである「持続可能なインパクトを生み出そう」の理念を共有し、ポリオ根絶、平和の推進、会員増強、地域社会に根ざした奉仕活動について理解を深めました。また、各分区・各クラブが抱える課題についても意見交換が行われ、地区とクラブが連携しながら課題解決に取り組む重要性を確認いたしました。

PELSでは、会長エレクトの皆様とともに、本年度の具体的な地区運営方針やクラブ運営について共通認識を深めました。特に、会員増強と公共イメージ向上、ロータリー財団への理解促進、青少年育成などについて活発な議論が行われました。

会員増強については、新しい仲間を迎えることはもちろん大切ですが、それ以上に「退会防止」が重要であると考えております。会員一人ひとりがクラブの中で居場所と役割を感じ、参加することに喜びと誇りを持てる環境づくりが必要であります。

CLLSでは、多くの会員の皆様にご参加いただき、各部会に分かれて実践的な討議が行われました。ロータリー・ポリオ根絶大使を務められる尾身茂先生による「感染症との闘い」のご講演では、ポリオ根絶への使命感を改めて共有する貴重な機会となりました。

また、会長・幹事部会や会員増強部会、青少年奉仕部会、RLI委員会メンバーによる新入会員部会など、それぞれの立場から活発な意見交換が行われ、地区全体の結束を深めることができました。

私は本年度、「共に歩み、未来に飛躍する」を地区運営方針として掲げたいと考えています。人口減少や地域コミュニティの変化、価値観の多様化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しております。そのような時代だからこそ、クラブの活性化と会員増強を進めながら、次世代を担う青少年育成、地域課題解決型の奉仕活動、そしてポリオ根絶への継続的支援に力を注いでまいります。

その中で、私が特に大切にしたいのは、“人を大切にするロータリー”であります。現代社会では、多くの人が仕事や家庭、地域社会の中で、さまざまなストレスを抱えながら生活しております。私は、会員の皆様の心の中にある「ストレスのコップ」から、水が溢れてしまわないようなクラブ運営を目指したいと考えております。

ロータリーは、義務感だけで集う場所ではなく、仲間と語り合い、励まし合い、心が温かくなる場所であってほしいと思います。例会に来ることで元気になれる、仲間に出会うことで前向きになれる、そのようなクラブの雰囲気こそが会員の定着につながり、結果として会員増強にも結び付いていくものと信じております。

また、青少年奉仕はロータリーの未来そのものであります。米山記念奨学会、インターアクト、ロータリーアクト、青少年交換、RYLA などを通じ、若い世代が国際感覚と奉仕の精神を育む機会をさらに充実させてまいります。未来を担う若者たちへの投資は、持続可能な社会への大切な一歩であり、彼らの成長を見守ることは、私たちロータリアンにとっても大きな喜びであります。

さらに、本年度もポリオ根絶への取り組みを継続してまいります。世界からポリオをなくすというロータリーの約束は、あと一步のところまで来ております。この歴史的使命を完遂するため、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ロータリーは、一人では成し得ないことを仲間と共に実現できる組織であります。地区とクラブ、そして会員一人ひとりが心をひとつに結び、力を合わせながら、皆様と共に「持続可能なインパクト」を力強く生み出してまいりたく存じます。

その実現に向け、皆様の温かいご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。